

内藤幸男と座間の未来を考える会 市政ドリル 第22号



責任感

郷土愛

情熱



座間市の市政と一緒に考えましょう！

問1 座間市では協働によるまちづくりに力を入れ、平成23年度から相互提案型協働事業に取り組んでいます。これまでに実施してきた事業数は？

①33事業

②44事業

③55事業

問2 今回の定例会で可決した議員提出議案の数は？

①5本

②6本

③7本

④8本

第2回定例会
一般質問

地域の特性を考慮した地域別計画を！

第五次座間市総合計画策定に向け提言

総合計画に示されている基本構想は、かつて、地方自治法により市区町村に対して、その策定が義務づけられていたものの、地方分権改革の取り組みの中で、国から地方への義務づけ、枠づけの見直しの一環として、地方自治法の一部を改正する法律(平成23年法律第35号)が平成23年8月1日に施行され、基本構想の策定を義務づけていた規定が廃止されています。これは、地方分権の一環として、市区町村の自主性の尊重と創意工夫の発揮を期待する観点から措置されたものであり、従来の総合計画とは抜本的に異なる方針や計画により、行政運営を行っている自治体も見られます。私は本市がこれから、第五次総合計画について策定を考えて行く中で、地域の個性や特性を踏まえた地区ごと単独で取り組む課題や取り組みをまとめた「地域別計画」が必要と考え、当局に一般質問を行いました。

企画財政部長からは「平成27年度に作成をいたしました座間市人口ビジョンの地区別将来人口の推計では、地域により異なる特徴が見られる結果となりましたので、これらの結果も考慮した地域別計画についても研究をしてみたいと考えております。」といった前向きな答弁を頂きました。

地域別計画を定めるとどうなる？

- ◆各地域における個性や特徴を生かしたまちづくりを計画的に推進できる
- ◆地域住民のまちづくりに対する考え方を行政と共有することができ、予算付けなどもリアルなものになる
- ◆地域住民がまちづくりに対して積極的になり、地域が活性化する

確かな一歩の積み重ねで座間市の未来へつなぐ。

答え 問1 ①、問2 ④



内藤幸男と座間の未来を考える会

☎090-6107-3467

〒252-0024 座間市入谷4-2891-42

✉ zama@naito-yukio.com



内藤幸男

検索

討議資料



平成30年第2回定例会一般質問と答弁の主な内容



内藤幸男 議員

6月11日の一般質問では「座間市総合計画」、「入谷4丁目の未来を見据えたまちづくり」について質問をさせていただきました。以下主な質問と答弁の内容になります。

◆協働のまちづくりを市としてはどのように捉えている？

第四次座間市総合計画で大きなテーマの一つとしている協働について、現状を市としてはどのように捉えていますか？

【市民部長】 平成23年度より相互提案型協働事業を実施し、平成29年度までに延べ33事業が実施されました。この事業は、市民活動団体の皆さんと市が協働して地域課題の解決へ取り組むものであり、市民協働推進会議でもその成果については評価されています。また、平成29年度には相互提案型協働事業の期間終了後の団体との関係について町内アンケートを行ったところ、「協働事業を実施したことで良好な関係が築け、現在に至っている」といった意見や「協働事業以降に自主的なサロンが立ち上がり、継続的活動が行われている」という報告も受けており、協働事業の目的に沿ったものになりつつあると考えています。

◆相互提案型協働事業での成功や課題は？

相互提案型協働事業で成功していること、また、逆に課題になっている点などがあると思いますが、具体的な取り組みを紹介いただきながら説明いただけますでしょうか？

【市民部長】 具体的な例として、座間災害ボランティアネットワークによる避難所運営委員会設置運営支援事業や、市提案型事業であった特定非営利活動法人さくら百華の道による相模が丘仲よし小道再生事業については市だけではなし得ない事業であり、まさに市民活動団体と市が手を携え協働してこそ成功した事例であると考えております。

課題としては、相互提案型協働事業開始当初と比べ近年は実施件数が少ない傾向にあります。その解消のためには市民活動団体への周知方法を検討することも必要と考えます。平成30年度からは中間支援期間である市民活動サポーターセンターにセンター長を配置することで年間を通し各種相談を受け付ける回数をふやしており、市民活動に関する適切なアドバイスをする機会が大幅にふえるなどの機能強化を図りました。今後、サポートセンターと連携し、協働によるまちづくりを推進してまいります。

◆地域支援力を強化させるための人材育成が重要では？

入谷4丁目は平成30年3月現在、65歳以上の方が2,200人余りと、市内で一番高齢者が住む地域となっています。地域支援力を強化させることが重要であり、そのための人材を育成していくことが重要と考えますが、当局の見解をお聞かせください。

【福祉部長】 民生委員や地区社協、地域包括支援センター、自治会等、地域を支える担い手となっている方の裾野を広げていくとともに、地域の居場所づくりとしてのサロン活動や介護予防事業の参加者、見守り活動の対象となる高齢者自身が地域での役割を見出すことにより、高齢者が高齢者を支える力となり、地域支援力も強化されるものと考えております。

◆地獄坂、手すりやベンチが必要！

入谷老人憩いの家から下る坂道、通称、地獄坂はかなりの急坂で、私としてはご高齢でもみずから歩いて坂道を上り下りできる健康づくりの観点、さらに、事業予算などを考えると、手すりの取り付けや休憩スペース(ベンチ)の確保などが必要になると考えますが、当局のご見解をお願いいたします。

【都市部長】 道路利用者のご要望は十分に認識をさせていただいておるところでございますが、高低差の解消とともに手すりの設置も難しく、交通管理者からは車両の通行制限は難しいとの意見をいただいております。また、ベンチに関しては、地域のご要望を受けて簡易的にU字溝を二つ、裏返して置かせていただいております。座ると冷たいというご意見もいただいたので、ちょっと木を乗っけて少し温かみはつけている状況ではございますが、雨が降るとぬれてしまったりしますので、きちんとしたベンチの設置に向けて進めてまいりたいと考えております。

◆小学校区や中学校区が分かれているエリアでの災害時の行動は？

この地域は入谷小、立野台小、中原小の三つの小学校区、座間西中と栗原中の二つの中学校に分かれています。このように学区が幾つかに分かれ避難所も複数該当する地域において、災害時に安心・安全、また、確実にスムーズに行動するために行っている取り組みがあればお示しください。

【市長室長】 入谷4丁目地区の市民等が避難する一次避難所として想定される施設は、入谷小、立野台小、中原小、栗原中、座間高があり、立野台小、中原小、栗原中については、避難所運営委員会の設置が既に済んでおります。入谷小、座間高については、避難所運営委員会の設置に向けて、自治会、自主防災組織などと調整中であり、近いうちに体制が整備されると考えております。避難すべき避難所については、避難所運営委員会が実施する会議や避難所開設運営訓練などを通じ、今後も市民等に啓発、周知を図ってまいりたいと考えております。

都市環境常任委員会視察

徳島県三好市・愛媛県新居浜市・愛媛県四国中央市

三好市

徳島県の最西端に位置し、香川県・愛媛県・高知県と接する山間地域にある三好市で、「サテライトオフィス誘致プロジェクト」について担当局に話を伺いました。

サテライトオフィスは、都心などに本社を構える企業が別の都市などに事務所を設けるもので、企業にとっては「コスト軽減」、「新たな人材確保手段」、「リスク分散」等といったメリットがあり、自治体としても生産人口減少の食い止めや商業活性化等の利点があります。

徳島県はサテライトオフィスの誘致に先進的に取り組んでいる自治体であり、中でも三好市は山間地域にあり利便性は良く無いものの、整備されたブロードバンド環境や企業への手厚い支援、地元雇用型の仕組みづくり等で、多くのサテライトオフィスを誘致しています。

マイナビの調査では近年、地元での就職を目指す学生が増えており、その割合は76%程度だといいます。働き方改革など都心に通勤しなくてもできる仕事も増えています。

本市としては都心にも近く三好市と環境や状況は違うものの、今回学んだことを参考に、若者の創業支援や空き家の活用方法、地元企業の人材不足を解消する手段等、商業の活性化にいかせるようにさらに調査・研究していきたいと思えます。



新居浜市

四国屈指の臨海工業都市である新居浜市で、その技術力や製品力を活かして地域経済の発展を目指す「新居浜ものづくりブランド」について学んできました。

新居浜市では、新居浜が有する優れた製品や技術を「新居浜ものづくりブランド」として認定し、販売開拓や新製品開発など意欲ある企業への積極的な支援を行っています。

- ・ものづくり企業マッチング支援事業(700万円)
- ・新居浜ものづくりブランド創出・支援等事業(1444万円)
- ・ものづくり技術シーズ展示会開催事業(499万)
- ・製造業イメージアップ事業(1300万円)

など、手厚い事業予算が組まれていました。



新居浜市発展の礎「別子銅山」にも立ち寄らせて頂きました



四国中央市

四国の県庁所在地(松山市・高松市・徳島市・高知市)すべてにアクセスしやすい交通の要衝である四国中央市で、「通学路交通安全プログラム」について視察しました。

四国中央市では継続的に通学路の安全を確保するため、合同点検を進め、対策実施後の効果把握を進め、対策実施後の効果把握を行い、対策の改善・充実を行っています。これらの取組をPDCAサイクルとして繰り返し実施し、通学路の安全性の向上を図っています。





活動報告



関東若手市議会議員の会のメンバーとして

◆静岡県地震防災センターにてHUG(避難所運営ゲーム)を体験

HUGは、避難所(H)運営(U)ゲーム(G)の略称で、避難所運営を任されたという想定の下で、次々にやってくる避難者の状況や要望を考慮しながら、迅速かつ適切に対応する術を学ぶシミュレーション型訓練です。若手市議会議員の会のメンバーと様々な意見を出し合いました。

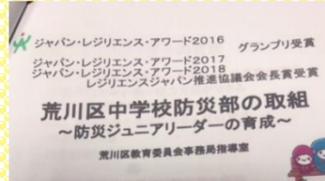


◆あらかわ遊園永久水利を視察



荒川区を流れる隅田川の水を消火用水として活用する仕組みです。永久的に流れる川の水を利用する事で、上水道に頼らない長時間の充水が可能です。本市では深井戸が多数存在し、深井戸を利用した永久水利ができるのではないかと感じました。

◆荒川区中学校防災部について



荒川区では平成27年度から10校ある中学校全校で防災部を創部、部員はD級ポンプの操作訓練やAEDの操作訓練、ジュニア防災検定の取得などの活動を実施しています。実は座間市はこのジュニア防災検定を県内で一早く導入しています。

かながわ自民党座間市議員団の一員として

●常総市で豪雨災害からの教訓学ぶ

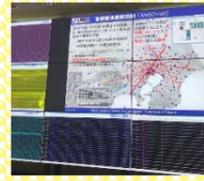


平成27年9月の豪雨で氾濫した鬼怒川の現状を現地視察。

●防災科学技術研究所でゲリラ豪雨体験



大型降雨実験施設で1時間300ミリのゲリラ豪雨を体験。



陸海統合地震津波火山観測網や府省庁連携防災情報共有システムについて説明を受けました。



●百里基地を視察



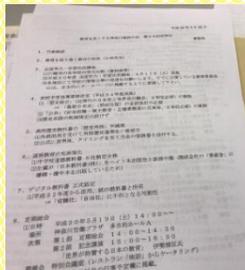
航空自衛隊の任務や活動についてフリーフィング。

●小田原の観光振興を学ぶ



北条氏や小田原の観光振興について説明を受けました。

その他の活動として



青年会議所では障がい当事者の就労支援を目的にした事業を実施させて頂きました。



教育を考える神奈川県民の会メンバーとして、高校の新学習指導要領について情報交換させて頂きました。



青年会議所で交流のあるスーパーナカや(若林専務)の協力で四ツ谷地域にも買い物支援バスを運行することが出来ました。タウンニュースにも取り上げて頂きました。

後援会へのご加入も随時募集しております。お電話090・6107・3467もしくはメール zama@naito-yukio.comにてご連絡ください。またご要望なども気軽にご相談ください。